

【視察日及び視察先】 2024 年 5 月 23 日（木）

柏の葉アーバンデザインセンター（千葉県柏市）

【視察項目】 柏の葉国際キャンパスタウン構想について

【概要】

最先端の知・産業・文化が育まれる国際学術研究都市、優れた自然環境と共生し、健康で高質の居住・就業環境が実現される次世代環境都市を実現させ、新たな文化や産業が生み出されるようなまちづくりを目指し、以下の 8 つの目標を立て持続可能な次世代都市づくりを行っている。

- 目標 1 環境と共生する田園都市づくり
- 目標 2 創造的な産業空間の醸成
- 目標 3 国際的な学術・教育・文化空間の形成
- 目標 4 サステイナブルな移動交通システム
- 目標 5 健康を育む柏の葉スタイルの創出
- 目標 6 公・民・学連携によるエリアマネジメントの実施
- 目標 7 質の高い都市空間のデザイン
- 目標 8 イノベーション・フィールド都市

【所感（意見・課題・本市への反映など）】

最初から新たな都市の青写真を描くことが出来るメリットがあり、その中にしっかりとした将来ビジョンのもと、まちづくりを行っていることが優れている。

持続可能な産業や都市構造を意識し、若い世代の心をつかむ取組が行われている。その結果、子育て世代の移住が多くなっている。

それに伴って、世代にあったコミュニティや都市構造の取組がなされて若々しいまちづくりとなっている。

数十年後の住人の状況にも対応できる取組も同時に考えながらのまちづくりも行っている。

本市との大きな違いは、都心のベッドタウンとしての機能があるということ。

しかし、大学や研究機関を核としてまちづくりを進めていることは、規模が違うが地域資源からいうと取組の方法によっては可能性があると考えられる。

しっかりとしたビジョンとコンセプトを持つことと、それらの継続性、公・民・

学の協力が重要であると感じる。

「目標7 質の高い都市空間のデザイン」が一番まちの人气に寄与していると担当者は感じていた。

まちに緑が多いということと美化が進んで美しいということが印象的であった。

【主な質疑】

【問】当該プロジェクトの特色は（他の学術研究都市との違い）。

【答】柏の葉アーバンデザインセンター（UDCK）が取組を行っていること。街の中心に商業施設をつくるといった一般的な考え方でなく、大学、企業、ホテルや行政などが混在するような、いろいろな機能を盛り込むことを進めている街である。

【問】当該プロジェクトへの投資額及び市の予算は。

【答】1,100億円で県と市で合計125億円、その他は国や保留地の売却益
UDCKの運営に2,000万円/年

【問】スマートシティの取組によりまちがどのように変化したか。

【答】結果を示すことは難しいが健康研究所の取組で健康関係ではプラスの部分の影響が出ている。

【問】開発にあたって心掛けたことは。

【答】そのまちをしっかりとデザインする。目に見えるリアルな部分が必要。デジタルだけではだめ。

【問】イノベーション・フィールドの設置により産業構造がどのように変化したか。

【答】大学、企業やスタートアップの開発や研究段階の技術者の場所として利用される機会が増え、その事業者が集まりサービスの開発の支援などにつながっている。

【問】イノベーションフェスの取組内容と取組効果は。

【答】三井不動産が中心となって取り組んでいる。
賞金100万円でこのまちを使ったテーマでアイデアコンテスト、ビジネスコンテスト等を行っている。

そのアイデアが、実際に住民の中でアプリとして実装されることにつながっている。

【問】 これらの取組によって柏の葉国際キャンパスタウンの人口バランスに変化はあったか。

【答】 ゼロからつくったまちは、人口が増えるだけなので、比較できない。結果的に子育て世代にマッチした。



柏の葉国際キャンパスタウンのエリアマップ



緑の多い街並み